

2022年度 第1回自治体学会評議員会 議事録

日時 2022年8月20日(土) 9時~10時03分

場所 Zoom会議

出席者 評議員42名(内:委任状8名)、監事2名
理事9名(内:評議員5名)、傍聴者6名
事務局3名

※冒頭、事務局から出席評議員29名、委任状8名で、49名中37名の参加で評議員会成立の報告があった。他に傍聴者5名の報告があった。

【理事長挨拶】

くまもと大会の現地開催を目指してきたが、急遽、オンラインでの開催となった。企画部会、事務局の奮闘により、ほぼ、対面開催の日程通り行うことができることとなった。評議員会についてもZoom会議で開催させていただく。

【事務局より】

Zoomの注意点など、会議運営の詳細について説明。10:00終了予定としたい。議長は金井理事長にお願いする。

【議事】

(1) 総会提出資料について

- ① 第1号議案 2021年度 事業報告(案)
- ② 第2号議案 2021年度 決算報告(案)
監査報告

第1号議案、第2号議案は一括議題として、事務局から説明。

監査報告は、飯川委員から、内、学術問題検討委員会に関することについては、大河委員から報告があった。

以下の質疑を踏まえ、総会へ提案することを承認された。

〈質疑〉

- ・(A評議員)改めて確認したい。第1号議案、第2号議案については、3月13日開催の2021年度第2回評議員会で一度議決している。今回、総会前として改めて付議されているが、3月時点との違いは？どこを審議すると理解すればいいのか。
- ⇒(杉渕事務局長)3月の評議員会では2月までの事業実施、執行状況を踏まえて提案している。今回は、3月末で確定したものを、監査報告を付けて提案している。

- ・(A評議員)改めて修正議決を行うということになるのか？
- ⇒(金井理事長)3月評議員会へ付議しているものは内容的には中間的なものであり、報告案件としてもいいのかもしれないが暫定的に議決している。正式な事業報告、決算の議決は、総会前の今回の評議員会でなされるものである。
- ⇒(A評議員)3月評議員会で出された意見への対応や、変更点等について説明があればよい。

③ 第3号議案 2022年度 事業計画(案)

④ 第4号議案 2022年度 収支予算(案)

一括議題として、事務局から説明。

急遽、WEB大会に切り替えたため、前回評議員会で審議したものと変更となっていることについて杉淵事務局長から、また、その変更に伴い、単年度収支の実質赤字幅が大きくなっている予算案となっていることについて金井理事長から説明された。

質疑はなく、総会へ提案することを承認された。

⑤ 第5号議案 役員改選(案)

中川役員推薦委員会委員長から説明。

全国選出評議員、地域選出評議員の候補者選出の経過について、中川委員長から説明された。

質疑はなく、総会へ提案することを承認された。

(※なお、役員推薦委員会については総会終了後に解散となる。)

⑥ 第6号議案 総会開催方法の変更について(案)

事務局から説明。

以下の質疑を踏まえ、総会へ提案することを承認された。

<質疑>

- ・(A評議員)規約、細則に異議はないが、総会開催時期について提案したい。現在、評議員等のオンライン開催はデフォルトになってきている。総会もオンライン開催なら時期に関わらず開催できるのではないか。今回の予算案については異議なく承認するものであるが、ただ、3月評議員会からの修正で単年度収支に100万円程度の差が生じている。3月評議員会の承認は何だったのか？という感はある。

これまでは、8月大会時に総会を開催するしかなかったので、当該年度予算を追認するような形で議決していた。年度が始まるまでに予算議決ができるよう、総会を開催してはどうか。オンライン開催であれば、予算執行が始

まるまでに議決する、という運営実態にできるのではないか。

⇒（金井理事長）趣旨はその通りと認識している。今は 8 月に総会開催することを前提に、3 月評議員会で、暫定的に事業計画、予算を承認している。今後のことについては、コロナ後の学会活動を検討するチームで、どうしていくのか検討していきたい。

ただし、総会は、現時点でオンライン開催ができていない。これは、ズーム参加での人数の問題が解決していないからである。現在は書面開催である。書面開催であれば 3 月に総会実施は難しいかもしれないが、それも含め検討していく。

【報告事項】

① 各部会報告等について

（竹見企画部会長）

- ・くまもと大会が急遽中止となり、大変ご迷惑をおかけした。できるだけ会員の皆様のご期待に応えられるよう、昨日から WEB 大会を開催している。ご理解をお願いします。
- ・大会に関しては、エキストラセミナー、研究発表セッションの拡大を行ってきた。来年度の現地開催に向け、予算状況も踏まえながら取り組んでいきたい。また、将来の大会のあり方について、理事会、評議員の動きと連携しながら、企画部会でも踏まえて研究していく。

（日下編集部会長）

- ・「自治体学」を二号発行、例年通りの活動を進める。

（南部地域支援部会長）

- ・自治立志塾については、コロナの影響で開催できない状況であるが、国は行動制限を緩和しているので開催に向けて検討したい。
- ・5 月より「地域と研究者等を結ぶ 自治体学会マッチング事業」を行っているが、現時点では申し込みはない。評議員の皆様にも積極的な活用・周知をお願いしたい。

（阿部研究支援部会長）

- ・研究論文等の決定、「J-STAGE」への掲載など例年通りの活動を進める。

（荒木総務部会長）

- ・例年通りの活動であるが、2023 年度が中期事業計画の見直し期になるので、それも見据えていきたい。

※事務局から学会賞委員会について報告。

正式発表は、総会（書面開催）の意見交換会を予定。

② その他

- ・ 入会状況（33名）について、事務局から説明。
- ・ 次期開催地について、川崎市で開催する。
- ・ 総会は書面開催。日程等は改めてお知らせする。

※閉会にあたり、A評議員より、現在の評議員会メンバーでの会議は最後になること、また、金井理事長、前川副理事長の評議員退任含みの役員推薦名簿の総会提案なので、挨拶をお願いしたい旨の申し出あり。

【金井理事長より】

評議員の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。今後書面開催される総会を経て次期評議員メンバーが決まるので、それまでは評議員としてよろしくお願いしたい。